

「貧血」の話

「血液中のヘモグロビン（*）濃度が基準以下に低下した状態（図下）」です。つまり貧血とは診断名ではなく症候名です。

分類	ヘモグロビン濃度
成人男性	13g/dL 未満
成人女性 小児 (6~14歳)	12g/dL 未満
妊婦 幼児 (6カ月~6歳)	11g/dL 未満

* ヘモグロビン（血色素）：

赤血球は、中央部がへこんだ円盤状の形をしています。（図右）

赤血球は骨髄で造血幹細胞から造られています。<ヘモグロビン>は赤血球の中に存在するタンパク質で、グロビンと呼ばれるタンパク質部分と鉄原子をもつヘム部分が結合したものです。ヘムの鉄原子に酸素が結合する性質を持ち、肺から全身へと酸素を運搬する役割を担っています。赤血球が赤く見えるのは、中に赤色素であるヘムを持っているヘモグロビン（血色素）を含んでいるためです。

鉄代謝との関係：

体内に存在する鉄は、ヘモグロビン鉄や貯蔵鉄（「フェリチン」として測定）として分布しています。（図右上）

血清鉄とは血清中に含まれる鉄分のことです。鉄分はヘモグロビンの原料であり、赤血球は酸素と二酸化炭素を運搬しています。血清鉄が不足すれば、貯蔵鉄から補給されます。

貧血の成因

貧血の主な成因としては、「赤血球の産生減少」「赤血球の消費量の増大」またはその両者の合併による場合が考えられます。そして赤血球の産生量<消費量のバランスが崩れ貧血が生じます。

「赤血球の産生減少」

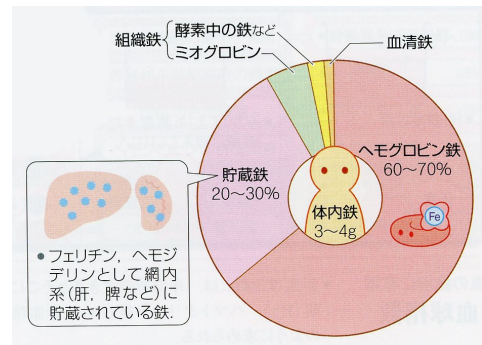
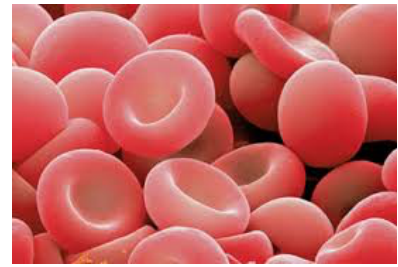
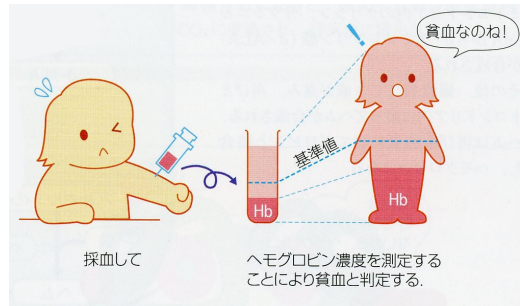
- ・鉄分の摂取不足が原因の場合：赤血球の原料となる鉄分のほかタンパク質やビタミンB12、葉酸などが不足しても赤血球を造る事ができず、赤血球が不足して貧血となります。
- ・鉄分の必要量増加が原因の場合：妊娠をした場合、妊娠する前に比べて鉄分やビタミンB12をより多く必要とするため、もともと摂取量が少なかった人はさらに鉄欠乏性貧血になりやすくなります。

「赤血球の消費量の増大」

- ・赤血球が破壊されている場合：溶血性貧血など
- ・継続的に出血が起きている場合：出血性貧血による場合には、外傷等による急性出血、消化性潰瘍、子宮筋腫、月経過多などによる慢性出血などが含まれます。

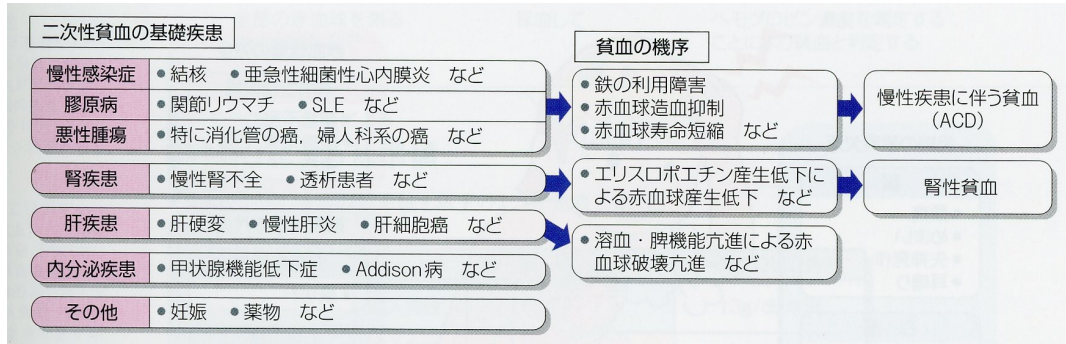
鉄欠乏性貧血：

貧血のなかでは最も頻度がたかく、貧血全体の7割を占めます。一般に若年~中年女性に多いみられます。



原因として、慢性出血によることが多く、男女共通のものでは慢性消化管出血、女性に特有のものでは、子宮筋腫などによる性器出血があげられます。慢性の出血により、血液とともに鉄も失われます。ダイエット、偏食による食生活での鉄不足、胃切除による鉄の吸収低下（胃酸がないと鉄が還元されないために吸収されない）が原因になることもあります。

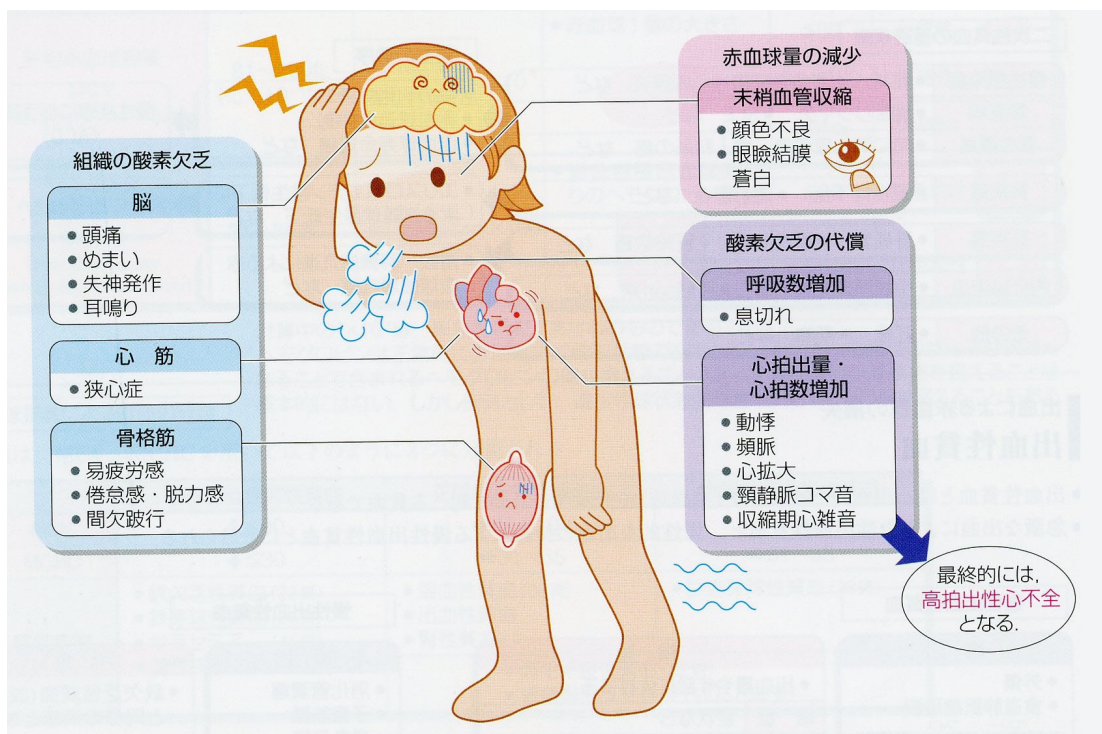
血液疾患以外の基礎疾患に続発した貧血（二次性貧血）が起こります。貧血自体の治療よりも基礎疾患の診断や治療が重要になります。（図下）



貧血に共通した症状

貧血の症状には、＜組織の酸素欠乏に基づく症状＞と、それを補うための＜生体の代償作用に基づく症状＞および＜赤血球量の減少による症状＞があります。

慢性に経過する貧血は、短時間に生じる貧血に比べて、経過していく過程で種々の代償作用が働くために症状は強くありません。



* 「脳貧血」について

血液検査での「貧血」に関係することもあります。が、「脳貧血」とは、血液内のヘモグロビン量とは関係がなく、急に起き上がったたり立ち上がったりでして血圧が急激に下がり、循環していた血液量が十分に脳に流れていかずに脳が酸欠状態となり、立ちくらみやふらつきなどの症状があらわれる状態です。

図は、「病気がみえる vol.5 血液」<MEDIC MEDIA>、「食と健康の総合サイト e840.net」ホームページから引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。
これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諒亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4（御国通り2丁目）
電話：0745-65-2631